

BIOSのセットアップ

Basic Input Output System(BIOS)の設定方法について説明します。

Expressサーバを導入したときやオプションの増設／取り外しをするときはここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

システムBIOS ~SETUP~

SETUPはExpressサーバの基本ハードウェアの設定を行うためのユーティリティツールです。このユーティリティはExpressサーバ内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時にExpressサーバにとって最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありませんが、この後に説明するような場合など必要に応じて使用してください。



- SETUPの操作は、システム管理者(アドミニストレータ)が行ってください。
- S E T U P では、パスワードを設定することができます。パスワードには、「Administrator」と「User」の2つのレベルがあります。「Administrator」レベルのパスワードでS E T U P にアクセスした場合、すべての項目の変更ができます。「Administrator」のパスワードが設定されている場合、「User」レベルのパスワードでは、設定内容を変更できる項目が限られます。
- OS(オペレーティングシステム)をインストールする前にパスワードを設定しないでください。
- Expressサーバには、最新のバージョンのSETUPユーティリティがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。

起 動

Expressサーバの電源をONにするとディスプレイ装置の画面にPOST(Power On Self-Test)の実行内容が表示されます。

しばらくすると次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP or Press

ここで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー画面を表示します。

以前にSETUPを起動してパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力してください。

Enter password:[]

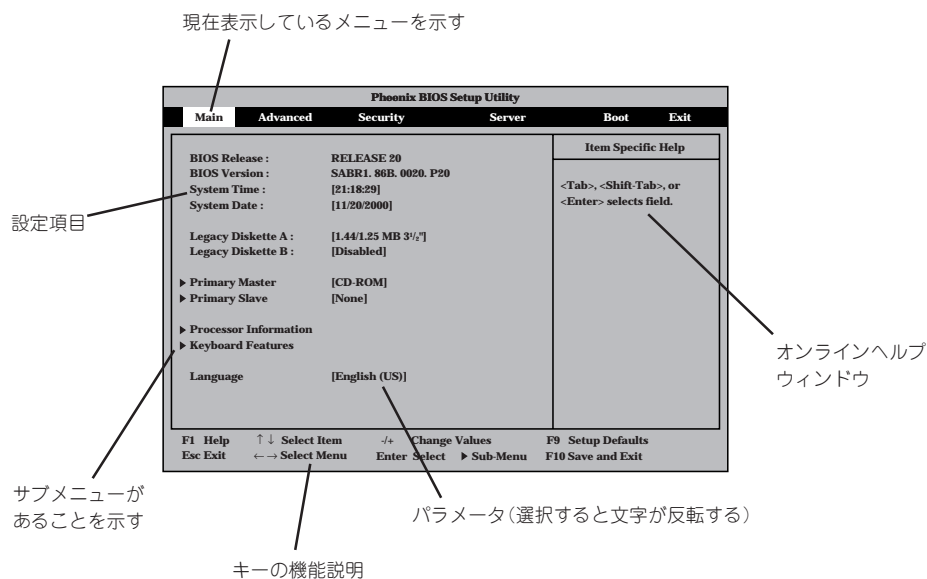
sXワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、Expressサーバは動作を停止します(これより先の操作を行えません)。電源をOFFにしてください。



パスワードには、「Administrator」と「User」の2種類のパスワードがあります。「Administrator」では、SETUPでのすべての設定の状態を確認したり、それらを変更したりすることができます。「User」では、確認できる設定や、変更できる設定に制限があります。

キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します(キーの機能については、画面下にも表示されています)。



- | | |
|---------------|--|
| カーソルキー(↑、↓) | 画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択されています。 |
| カーソルキー(←、→) | MainやAdvanced、Security、System Hardware、Boot、Exitなどのメニューを選択します。 |
| <→>キー / <+>キー | 選択している項目の値(パラメータ)を変更します(スペースバーでも変更できます)。サブメニュー(項目の前に「▶」がついているもの)を選択している場合、このキーは無効です。 |
| <Enter>キー | 選択したパラメータの決定を行うときに押します。 |
| <Esc>キー | ひとつ前の画面に戻ります。 |
| <F1>キー | SETUPの操作でわからないことがあったときはこのキーを押してください。SETUPの操作についてのヘルプ画面が表示されます。<Esc>キーを押すと、元の画面に戻ります。 |
| <F9>キー | 現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します(出荷時の設定と異なる場合があります)。 |
| <F10>キー | 新たに選択した内容をCMOS(不揮発性メモリ)に保存してSETUPを終了し、再起動します。 |

設定例

次にソフトウェアと関係した機能や、システムとして運用するときに必要な機能の設定例を示します。

起動関連

Expressサーバに接続している起動デバイスの順番を変える

「Boot」→「Boot Device Priority」→起動順序を設定する



EXPRESSBUILDERを起動する場合は、「1. ATAPI CD-ROM Drive」、「2. Removable Devices」、「3. Hard Drive」の順にしてください。

HWコンソールから制御する

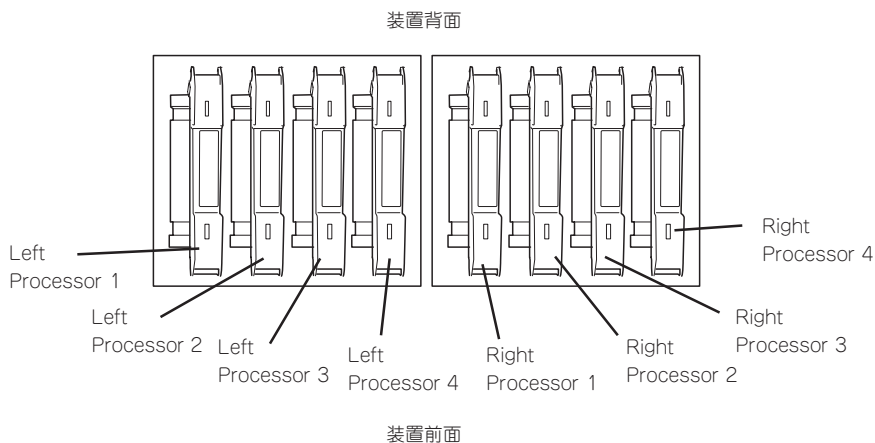
「Server」→「Console Redirection」→それぞれの設定をする

CPU関連

搭載しているCPUの内容を確認する

「Main」→「Processor Information」→表示を確認する

画面に表示されているプロセッサ番号とプロセッサメザニンボード上のソケットの位置は下図のように対応しています。



CPUのエラー情報をクリアする

「Server」→「Processor Retest」→「Yes」

キーボード関連

Numlockやキーリピートを設定する

「Main」→「Keyboard Features」→それぞれを設定する

セキュリティ関連

管理者パスワード(Administrator)を設定する

「Security」→「Set Administrator Password」→パスワードを入力する

ユーザーパスワード(User)を設定する

「Security」→「Set Supervisor Password」→パスワードを入力する

管理者パスワード(Administrator)、ユーザパスワード(User)の順に設定します。

POWERスイッチ/SLEEPスイッチやRESETスイッチの機能を有効/無効にする

「Security」→「Front Panel Locked」→「Disabled」(有効)

「Security」→「Front Panel Locked」→「Enabled」(無効)



POWERスイッチをマスクするとPOWERスイッチによるON/OFF操作に加え、「強制シャットダウン(198ページ参照)」も機能しなくなります。

セキュアモードに設定する

「Security」→「Secure Mode Boot」

外付けデバイス関連

外付けデバイスに対する設定をする

「Advanced」→「I/O Device Configuration」→それぞれのデバイスに対して設定をする

内蔵デバイス関連

Expressサーバ内蔵のPCIデバイスに対する設定をする

「Advanced」→「PCI Configuration」→それぞれのデバイスに対して設定をする

ハードウェアの構成情報をクリアする(内蔵デバイスの取り付け/取り外しの後)

「Advanced」→「Reset Configuration Data」→「Yes」

PCIホットプラグ関連

PCIホットプラグをする

「Advanced」→「Hot-plug PCI Master Control」→「Enabled」
「Advanced」→「Hot-plug PCI Allocation Level」→「Disabled」以外*

* この設定を「Disable」以外に設定すると実際に搭載しているメモリ容量より少なくなり
ます。

N型番	ボード名	設定値
N8503-31A	SCSIコントローラ	Minimum
N8504-75	100BASE-TX 接続ボード*	Minimum

ホットプラグを行うPCIボードにより設定が異なります。

PCIボードスロット#7～#10でホットプラグをする場合は、取り付けるボードに合わせて
あらかじめスロットのスピードを設定しておいてください。

「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Bus Speed Default」→取り付けるボード
のスピード*

設定内容のセーブ関連

BIOSの設定内容を保存する

「Exit」→「Exit Saving Changes」または「Save Changes」

変更したBIOSの設定を破棄する

「Exit」→「Exit Discarding Changes」または「Discard Changes」

BIOSの設定をデフォルトの設定に戻す(出荷時の設定とは異なる場合があります)

「Exit」→「Load Setup Defaults」

パラメータと説明

SETUPには大きく6種類のメニューがあります。

- Mainメニュー
- Advancedメニュー
- Securityメニュー
- Serverメニュー
- Bootメニュー
- Exitメニュー

このメニューの中からサブメニューを選択することによって、さらに詳細な機能の設定ができます。次に画面に表示されるメニュー別に設定できる機能やパラメータ、出荷時の設定を説明をします。

Main

SETUPを起動すると、はじめに「Main」メニューが表示されます。

項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すと、サブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
BIOS Release : RELEASE 20				Item Specific Help	
BIOS Version : SABR1.86B.0020.P20				<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.	
System Time : [21:18:29]					
System Date : [11/20/2000]					
Legacy Diskette A : [1.44/1.25 MB 3 1/2"]					
Legacy Diskette B : [Disabled]					
▶ Primary Master [CD-ROM]					
▶ Primary Slave [None]					
▶ Processor Information					
▶ Keyboard Features					
Language [English (US)]					
F1 Help	↑↓ Select Item	/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit		

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
BIOS Release	(BIOSのリリースNo.)	システムBIOSのリリースNo.を表示します(表示のみ)。
BIOS Version	(BIOSのバージョン)	システムBIOSのバージョンを表示します(表示のみ)。
System Time	HH:MM:SS	時刻の設定をします。
System Date	MM/DD/YYYY	日付の設定をします。
Legacy Diskette A	Disabled 360Kb, 5 ¹ / ₄ " 1.2Mb, 5 ¹ / ₄ " 720Kb, 3 ¹ / ₂ " [1.44/1.25Mb, 3 ¹ / ₂ "] 2.88Mb, 3 ¹ / ₂ "	フロッピーディスクドライブA(標準装備)のタイプを選択します。 通常は「1.44/1.25 MB 3 ¹ / ₂ 」を選択してください。
Legacy Diskette B	[Disabled] 360Kb, 5 ¹ / ₄ " 1.2Mb, 5 ¹ / ₄ " 720Kb, 3 ¹ / ₂ " [1.44/1.25Mb, 3 ¹ / ₂ "] 2.88Mb, 3 ¹ / ₂ "	フロッピーディスクドライブBのタイプを選択します。 フロッピーディスクドライブBはサポートしませんので、「Disabled」に設定してください。
Primary Master	—	選択するとIDEサブメニューが表示されません。
Primary Slave	—	選択するとIDEサブメニューが表示されません。
Processor Information	—	選択するとProcessor Informationサブメニューが表示されます。
Keyboard Features	—	選択するとKeyboard featuresサブメニューが表示されます。
Language	[English] French German Italian Spanish	SETUPで表示する言語を選択します。

[]: 出荷時の設定

Primary Master/Primary Slave

Mainメニューの「Primary Master」または「Primary Slave」を選択して<Enter>キーを押すとそれぞれのサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility			
Main			
Primary Master [CD-ROM]		Item Specific Help	
Type :	[Auto]	User = you enter parameter of hard-disk drive installed at this connection. Auto = autotypes hard-disk drive installed here. 1-39 = you select pre-determined type of hard-disk drive installed here. CD-ROM = a CD-ROM drive is installed here. ATAPI Removable = removable disk drive is installed here.	
Multi-Sector Transfers :	[Disabled]		
LBA Mode Control :	[Disabled]		
32 Bit I/O :	[Disabled]		
Transfer Mode :	[Standard]		
Ultra DMA Mode :	[Disabled]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select	▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

Phoenix BIOS Setup Utility			
Main			
Primary Slave [None]		Item Specific Help	
Type :	[Auto]	User = you enter parameter of hard-disk drive installed at this connection. Auto = autotypes hard-disk drive installed here. 1-39 = you select pre-determined type of hard-disk drive installed here. CD-ROM = a CD-ROM drive is installed here. ATAPI Removable = removable disk drive is installed here.	
32 Bit I/O :	[Disabled]		
Transfer Mode :	[Standard]		
Ultra DMA Mode :	[Disabled]		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select	▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Type	None CD-ROM IDE Removable ATAPI Removable User [Auto]	MasterとなるIDEデバイスの設定をします。 Autoに選択するとPOST実行中に自動的に デバイスが検出されます。 [Auto]に設定してください。
Cylinders	—	シリンダー数を表示します(表示のみ)。
Heads	—	リード/ライト ヘッド数を表示します(表示の み)*。
Sectores	—	各トラックのセクタ数を表示します(表示の み)*。
Maximum Capacity	—	ドライブの容量を表示します(表示のみ)*。
Multisector Transfers	Disabled 2 Sectors 4 Sectors 8 Sectors 16 Sectors	BIOSによって制御されるマルチセクタ転送 の状態を表示します。(表示のみ)
LBA Mode Control	Disabled Enabled	BIOSによって制御されるLBA(Logical Block Access)の状態を表示します。(表示 のみ)
32 Bit I/O	[Disabled] Enabled	32bit IDEデータ転送の有効/無効を設定しま す。
Transfer Mode	Standard Fast PIO 1 Fast PIO 2 Fast PIO 3 Fast PIO 4	BIOSによって制御されるドライブ間のデー タ転送方法を表示します。(表示のみ)
Ultra-DMA Mode	Disabled Mode 0 Mode 1 Mode 2	BIOSによって制御されるドライブ間のデー タ転送のUltra-DMA Mode表示します。(表 示のみ)

[]: 出荷時の設定

* Typeを「User」に設定した時のみ表示します。

Processor Information

Mainメニューの「Processor Information」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

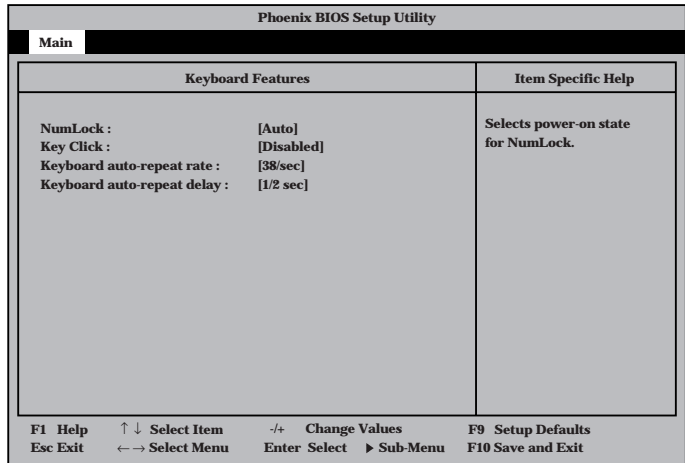
Phoenix BIOS Setup Utility			
Main			
Processor Information		Item Specific Help	
Left Processor 1 CPU ID :	6A0	All items on this menu cannot be modified in user mode. If any items require changes, please consult your system Administrator.	
Left Processor 1 Cache Size :	2 MB		
Left Processor 2 CPU ID :	6A8		
Left Processor 2 Cache Size :	2 MB		
Left Processor 3 CPU ID :			
Left Processor 3 Cache Size :			
Left Processor 4 CPU ID :			
Left Processor 4 Cache Size :			
Right Processor 1 CPU ID :			
Right Processor 1 Cache Size :			
Right Processor 2 CPU ID :			
Right Processor 2 Cache Size :			
Right Processor 3 CPU ID :			
Right Processor 3 Cache Size :			
Right Processor 4 CPU ID :			
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults			
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save and Exit			

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Left Processor 1 Stepping ID	—	Left Processor 1のステッピングを表示します(表示のみ)。
Left Processor 1 L2 Cache Size	—	Left Processor 1のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Left Processor 2 Stepping ID	—	Left Processor 2のステッピングを表示します(表示のみ)。
Left Processor 2 L2 Cache Size	—	Left Processor 2のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Left Processor 3 Stepping ID	—	Left Processor 3のステッピングを表示します(表示のみ)。
Left Processor 3 L2 Cache Size	—	Left Processor 3のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Left Processor 4 Stepping ID	—	Left Processor 4のステッピングを表示します(表示のみ)。
Left Processor 4 L2 Cache Size	—	Left Processor 4のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Right Processor 1 Stepping ID	—	Right Processor 1のステッピングを表示します(表示のみ)。
Right Processor 1 L2 Cache Size	—	Right Processor 1のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Right Processor 2 Stepping ID	—	Right Processor 2のステッピングを表示します(表示のみ)。
Right Processor 2 L2 Cache Size	—	Right Processor 2のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Right Processor 3 Stepping ID	—	Right Processor 3のステッピングを表示します(表示のみ)。
Right Processor 3 L2 Cache Size	—	Right Processor 3のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。
Right Processor 4 Stepping ID	—	Right Processor 4のステッピングを表示します(表示のみ)。
Right Processor 4 L2 Cache Size	—	Right Processor 4のキャッシュサイズを表示します(表示のみ)。

Keyboard Features

Mainメニューの「Keyboard Features」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



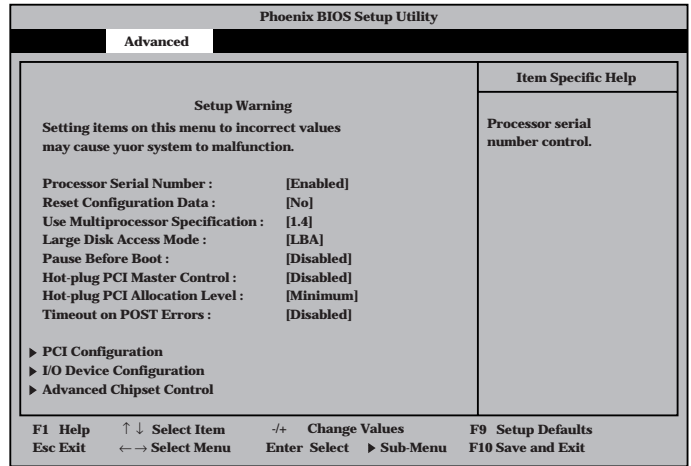
各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Numlock	[Auto] On Off	システム起動時にNumlockの有効/無効を設定します。「Auto」では、テンキーからの入力を検出したときに有効にします。
Key Click	[Disabled] Enabled	キークリック音の有効/無効を設定します。
Keyboard auto-repeat rate	[30/sec] 26.7/sec 21.8/sec 18.5/sec 13.3/sec 10/sec 6/sec 2/sec	キーリピート時、1秒間に出力される文字の数を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4 sec [1/2 sec] 3/4 sec 1 sec	キーリピートが開始されるまでの時間を設定します。

[]: 出荷時の設定

Advanced

カーソルを「Advanced」に合わせてると「Advanced」メニューが表示されます。



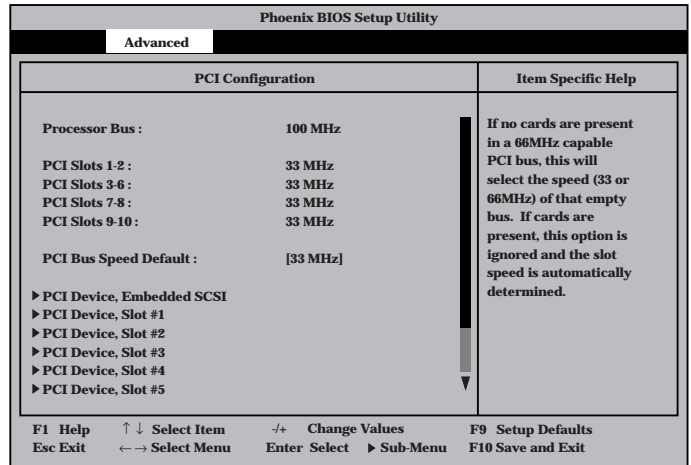
各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Processor Serial Number	Disabled [Enabled]	プロセッサシリアル番号機能の有効/無効を設定します。
Reset Configuration Data	[No] Yes	コンフィグレーションデータ(POSTで記憶しているシステム情報)をクリアするときは「Yes」に設定します。装置の起動後にこのパラメータは「No」に切り替わります。
Use Multiprocessor Data	1.1 [1.4]	MPスペックのバージョンを選択します。 [1.4]に設定してください。
Large Disk Access Mode	CHS [LBA]	IDEドライブへのアクセス方法を選択します。 [LBA](Logical Block Addressing)に設定してください。
Pause Before Boot	[Disabled] Enabled	OS起動前にシステムを5秒間ポーズさせるかどうかを設定します。
Hot-plug PCI Master Control	[Disabled] Enabled	各PCIスロットに対してホットプラグPCIリソーステーブルを作成し、リソースを確保します。PCIホットプラグを行う場合は必ず「Enabled」に設定してください。 Windows2000が出荷時にインストールされたモデルでシステム診断を実行する場合は、「Disabled」に設定してから行ってください。また、システム診断終了後は設定を元に戻してください。
Hot-plug PCI Allocation Level	Disabled: [Min] [Max]	PCIボードを搭載していないスロットに対してPCIホットプラグのために予約するメモリサイズを割り当てます。
Timeout on POST Errors	[Disabled] Enabled	POSTを実行中、POSTエラーが発生した際にPOSTの終わりでPOSTをいったん停止するかどうかを設定します。
PCI Configuration	—	選択するとPCI Configurationサブメニューが表示されます。
I/O Device Configuration	—	選択するとI/O Device Configurationサブメニューが表示されます。
Advanced Chip Set Control	—	選択するとAdvanced Chip Set Controlサブメニューが表示されます。

[]: 出荷時の設定

PCI Configuration

Advancedメニューの「PCI Configuration」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



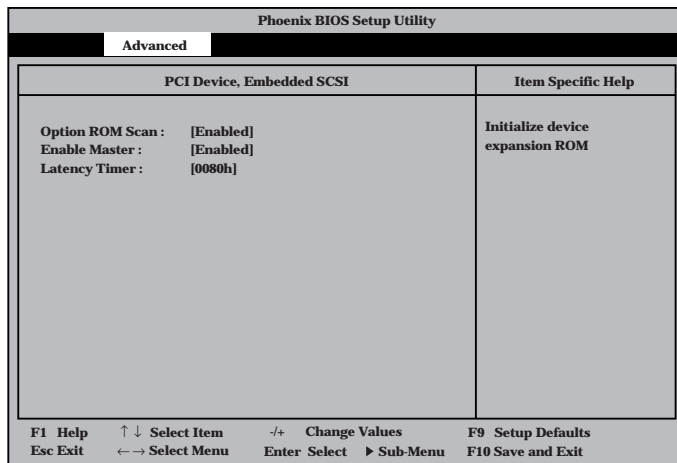
各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Processor Bus	100 MHz	プロセッサBusのクロック速度を表示します(表示のみ)。
PCI Slots 1-2	33 MHz	PCIスロット1-2のクロック速度を表示します(表示のみ)。
PCI Slots 3-6	33 MHz	PCIスロット3-6のクロック速度を表示します(表示のみ)。
PCI Slots 7-8	33 MHz 66 MHz	PCIスロット7-8のクロック速度を表示します(表示のみ)。
PCI Slots 9-10	33 MHz 66 MHz	PCIスロット9-10のクロック速度を表示します(表示のみ)。
PCI Bus Speed Default	[33 MHz] 66 MHz	PCIスロット7-10に対して、あらかじめスロットの速度を設定します。ボードを取り付けてから電源ONするとボードに対応した速度が自動設定されて、この値は無視されます。 ホットプラグで電源ON中にボードを取り付ける場合はあらかじめホットプラグしたいボードの速度に設定しておく必要があります。
PCI Device, Embedded SCSI	—	選択すると、内蔵のSCSIコントローラのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 1	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 2	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 3	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 4	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 5	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 6	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 7	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 8	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 9	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。
PCI Slot 10	—	選択すると、このPCIスロットのPCI Modeサブメニューが表示されます。

[]: 出荷時の設定

PCI Device, Embedded SCSI

Advancedメニューの「PCI Configuration」から「PCI Device, Embedded SCSI」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。I/Oキャリア上のSCSIコントローラのPCIバスに対する設定をします。



各項目の機能は次のとおりです。


項目	パラメータ	説明
Option ROM Scan	Disabled [Enabled]	内蔵のSCSIコントローラのBIOSの有効/無効を設定します。グラフィックアクセラレータボードやディスクアレイコントローラボードを取り付ける際は必ず「Enabled」に設定してください。
Enabled Master	Disabled [Enabled]	内蔵のSCSIコントローラをPCIバスマスタにするかどうかを設定します。
Latency Timer	Default 0020h 0040h 0060h [0080h] 00A0h 00C0h 00E0h	レーテンシータイマーの値を設定します。

[]: 出荷時の設定

PCI Device, Slot #n

Advancedメニューの「PCI Configuration」から「PCI Device, Slot #n」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Advanced	
PCI Device, Slot #1	Item Specific Help
Option ROM Scan : [Enabled] Enable Master : [Enabled] Latency Timer : [0080h]	Initialize device expansion ROM
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit	

 **チェック** nはPCIスロットの番号を示します。設定したいボードが取り付けられているスロット番号を確認してからサブメニューに進んでください。

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Option ROM Scan	Disabled [Enabled]	PCIボードに搭載されているBIOSの有効/無効を設定します。グラフィックアクセラレータボードやディスクアレイコントローラボードを取り付ける際は必ず「Enabled」に設定してください。
Enabled Master	Disabled [Enabled]	PCIボードに取り付けたデバイスをPCIバスマスタにするかどうかを設定します。
Latency Timer	Default 0020h 0040h 0060h [0080h] 00A0h 00C0h 00E0h	レーテンシータイマーの値を設定します。

[]: 出荷時の設定

I/O Device Configuration

Advancedメニューの「I/O Device Configuration」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility			
Advanced			
I/O Device Configuration		Item Specific Help	
Serial port A :	[Enabled]	Configure serial port A using options :	
Base I/O address :	[3F8]	[Disabled]	
Interrupt :	[IRQ 4]	No Configuration	
Serial port B :	[Enabled]	[Enabled]	
Base I/O address :	[2F8]	User configuration	
Interrupt :	[IRQ 3]	[Auto]	
Parallel port :	[Enabled]	BIOS or OS chooses configuration	
Mode :	[Bi-directional]		
Base I/O address :	[378]		
Interrupt :	[IRQ 7]		
Floppy disk controller :	[Enabled]		

F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Serial Port A	Disabled [Enabled] Auto	シリアルポート1の有効/無効を設定します。
Base I/O Address	[3F8h] 2F8h 3E8h 2E8h	シリアルポート1のベースI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ 3 [IRQ 4]	シリアルポート1の割り込みを設定します。
Serial Port B	Disabled [Enabled] Auto	シリアルポート2の有効/無効を設定します。
Base I/O Address	3F8h [2F8h] 3E8h 2E8h	シリアルポート2のベースI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	[IRQ 3] IRQ 4	シリアルポート2の割り込みを設定します。
Parallel Port	Disabled [Enabled] Auto	パラレルポートの有効/無効を設定します。
Mode	Output only [Bidirectional] EPP ECP	パラレルポートの動作モードを選択します。パラレルポートがDisabledの時には表示されません。
Base I/O Address	[378h] 278h 178h 3BCh	パラレルポートのベースI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ 5 [IRQ 7]	パラレルポートの割り込みを設定します。
DMA channel	DMA 1 [DMA 3]	パラレルポートのDMAチャンネルを設定します。ECPモードに設定されているときのみ有効です。
Floppy disk controller	Disabled [Enabled] Auto	内蔵のフロッピーディスクコントローラの有効/無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

Advanced Chipset Control

Advancedメニューの「Advanced Chipset Control」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されま

す。

Phoenix BIOS Setup Utility		
Advanced		
Advanced Chipset Control		Item Specific Help
Extended RAM Step :	[1 MB]	Tests extended memory - Once per KB, or - Once per MB, or - Every location.
L2 Cache :	[Enabled]	
Multi-Boot Support :	[Disabled]	
Dvrride PHP Switches :	[Disabled]	
2 GB Memory Limit :	[Disabled]	
F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit		

各項目の機能は次のとおりです。

項 目	パラメータ	説 明
Extended RAM Step	[1 MB] 1 KB Every location	POSTの増設メモリテスト領域を設定する。1MBアドレス境界/1KBアドレス境界/すべてのエリアのいずれかに設定可能。
L2 Cache	Disabled [Enabled]	セカンドキャッシュの有効/無効を設定します。「Enabled」に設定してください。
Multiboot Support	[Disabled] Enabled	Multiboot機能の有効/無効を設定します。「Enabled」に設定するとハードディスクが複数取り付けられている場合、ブートの優先順位を設定できます。また、LANコントローラからのブートが選択可能となります。POST中に<Esc>キーを押すと、POST終了後ブートデバイス選択画面が表示され任意のデバイスよりブートできます。
Override PHP Switches	[Disabled] Enabled	PCIスロットのタブによるスロットの電源Offの有効/無効を設定します。
2 GB Memory Limit	[Disabled] Enabled	増設したメモリを2GBまで有効とします。2GB以上のメモリ領域は無効になります。

[]: 出荷時の設定

Security

カーソルを「Security」に合わせると「Security」メニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility		
Main	Advanced	Security
User Password is : Clear Administrator Password is : Clear Set User Password [Enter] Set Administrative Password [Enter] Password on boot : [Disabled] Secure Mode Timer : [Disabled] Secure Mode Hot Key : [] Secure Mode Boot : [Disabled] Video Blanking : [Disabled] Floppy Write Protect : [Disabled] Front Panel Lockout : [Disabled]		Item Specific Help User Password controls access to the system at boot.
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	-/+ Change Values Enter Select ▶ Sub-Menu
		F9 Setup Defaults F10 Save and Exit

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
User Password is	Set Clear	ユーザーパスワードの設定状態を表示します。 設定: Set、未設定: Clear
Administrator Password is	Set Clear	アドミニストレータパスワードの設定状態を表示します。 設定: Set、未設定: Clear
Set User Password	7文字までの英数字	<Enter>キーを押すとユーザのパスワード入力画面になります。このパスワードではSETUPメニューへのアクセスが制限されます。あらかじめ「Administrator Password」を設定しておかないと設定できません。パスワードをクリアする場合は、パスワードをブランクで設定するか、I/Oキャリア上のジャンパのスイッチの設定を変更することで実行できます。
Set Administrative Password	7文字までの英数字	<Enter>キーを押すとアドミニストレータのパスワード入力画面になります。このパスワードですべてのSETUPメニューにアクセスできます。この設定はSETUPを起動したときのパスワードの入力で「アドミニストレータ」でログインしたときのみ設定できます。パスワードをクリアする場合は、パスワードをブランクで設定するか、I/Oキャリア上のジャンパのスイッチの設定を変更することで実行できます。



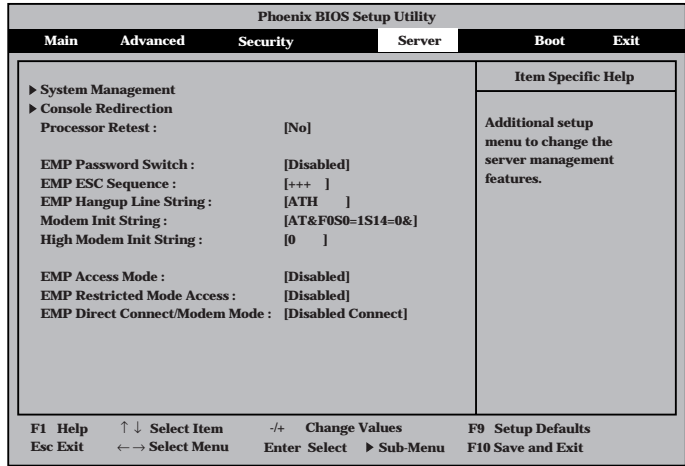
OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。

項目	パラメータ	説明
Password on boot	[Disabled] Enabled	ブート時にパスワードの入力を行う／行わないの設定をします。先にアドミニストレータのパスワードを設定する必要があります。もし、アドミニストレータのパスワードが設定されていて、このオプションが無効の場合はBIOSはユーザがブートしていると判断します。
Secure Mode Timer	[Disabled] 1 min 2 min 5 min 10 min 20 min 1 hr 2 hr	キーボードやマウスからの入力が途絶えてからSecure Modeに入るまでの時間を設定します。「Disabled」のときはSecure Modeになりません。
Secure Mode Hot Key	[Disabled] (A, B, ..., Z)	Secure Modeを起動させるキーを設定します。<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら設定したい任意のキーを押すとSecure Modeが起動します。
Secure Mode Boot	[Disabled] Enabled	Expressサーバの起動時にSecure Modeで起動させるかどうかを設定します。Secure modeを解除する場合はパスワード入力が必要です。
Video Blanking	[Disabled] Enabled	Secure Modeで起動させた際、画面表示をする／しないについての設定をします。本機能を解除する場合はパスワード入力が必要です。
Floppy Write Protect	[Disabled] Enabled	Secure Modeで起動させた際、フロッピーディスクドライブへセットしたフロッピーディスクへの書き込みを許可するか禁止するかを設定します。本機能を解除する場合はパスワード入力が必要です。
Front Panel Lockout	[Disabled] Enabled	Secure Modeで起動させた際、パワー/スリープスイッチやリセットスイッチの有効／無効を設定します。本機能を解除する場合はパスワード入力が必要です。

[]: 出荷時の設定

Server

カーソルを「Server」に合わせると「Server」メニューが表示されます。



各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
System Management	—	選択するとSystem Managementサブメニューが表示されます。
Console Redirection	—	選択するとConsole Redirectionサブメニューが表示されます。
Processor Retest	[No] Yes	プロセッサがPOSTでエラーした場合、「Yes」に設定するとプロセッサのエラー情報をクリアし、次の起動時に再テストします。故障したプロセッサを交換した後は必ず「Yes」に設定して再起動してください。
EMP Password Switch	[Disabled] Enabled	EMPパスワードの有効/無効を設定します。
EMP Password	8文字までの英数字	EMP Password Switchの設定が[Enabled]のとき、設定が有効となります。
EMP ESC Sequence	—	フロントパネルコントローラのファームウェアによって更新される領域です(表示のみ)。
EMP Hangup Line String	—	フロントパネルコントローラのファームウェアによって更新される領域です(表示のみ)。
Modem Init String	—	フロントパネルコントローラのファームウェアによって更新される領域です(表示のみ)。
High Modem Init String	—	フロントパネルコントローラのファームウェアによって更新される領域です(表示のみ)。
EMP Access Mode	Pre-Boot Only Always Active [Disabled]	EMPを[Enabled]に設定したとき、本設定を「Always」に設定するとEMP機能は常に有効となります。「Pre-Boot Only」に設定するとEMP機能はPOST中が電源OFF中のみ有効となります。「Disabled」に設定するとEMP機能は無効となります。"
EMP Restricted Mode Access	[Disabled] Enabled	Restricted Modeの有効/無効を設定します。「Enabled」に設定するとEMPからの電源OFF、フロントパネルNMI、リセットが無効となります。
EMP Direct Connect/ Modem Mode	[Direct Connect] Modem Mode	HWコンソールとの接続方法を設定します。WAN接続の場合は必ず「Modem Mode」に設定してください。

[]: 出荷時の設定

System Management

Serverメニューの「System Management」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility		
Server		
System Management	Item Specific Help	
Firmware SMIs : [Enabled] System Event Log : [Enabled] Clear Event Log : [Disabled] Memory Scrubbing : [Enabled] AERR Enable : [Enabled] Assert NMI on BERR : [Enabled] Assert NMI on PERR : [Enabled] Assert NMI on SERR : [Enabled] Enable Host Bus Error : [Enabled] FPC Error Check : [Disabled] HSC Error Check : [Disabled] ▶ Server Management Info	If disabled, SMIs generated by system management firmware will be turned off.	
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	+/- Change Values Enter Select ▶ Sub-Menu
		F9 Setup Defaults F10 Save and Exit

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Firmware SMIs	Disabled [Enabled]	IPMB上のエージェントからのSMIの生成の有効/無効を設定します。
System Event Logging	Disabled [Enabled]	システムイベントログ採取の有効/無効を設定します。
Clear Event Log	[Disabled] Enabled	「Enabled」に設定して再起動するとイベントログがクリアされます。
Memory Scrubbing	Disabled [Enabled]	メインメモリにおいてECC Correctable Errorが発生した場合、修正データの書き戻し機能の有効・無効を設定します。
AERR Enable	Disabled [Enabled]	プロセッサホストバスのAERRの検出の有効/無効を設定します。
Assert NMI on BERR	Disabled [Enabled]	NMIによるBERRの通知が有効/無効かを設定します。SERRを「Enabled」に設定したとき有効となります。
Assert NMI on PERR	Disabled [Enabled]	NMIによるPERRの通知が有効/無効かを設定します。SERRを「Enabled」に設定したとき有効となります。
Assert NMI on SERR	Disabled [Enabled]	NMIによるSERRの通知が有効/無効かを設定します。
Enable Host Bus Error	Disabled [Enabled]	プロセッサバスのECCチェックの有効/無効を設定します。
FPC Error Check	[Disabled] Enabled	FPC(Front Panel Controller)のチェックの有効/無効を設定します。
HSC Error Check	[Disabled] Enabled	HSC(Hot-Swap Controller)のチェックの有効/無効を設定します。
Server Management Info	—	選択すると、Server Management Infoサブメニューが表示されます。

[]: 出荷時の設定

Server Management Info

Serverメニューの「Server Management」から「Server Management Info」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility			
Server			
Server Management Info	Item Specific Help		
Board Part Number :	702647-606	All items on this menu cannot be modified in user mode. If any items require changes, please consult your system Administrator.	
Board Serial Number :	ABSA03104642		
System Part Number :	SPMCBT		
System Serial Number :	Z01231499		
Chassis Part Number :	SPMCBT		
Chassis Serial Number :	Z01231499		
BMC Revision :	05010026		
FPC Revision :	01010018		
Hotswap Revision :	02010005		
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select	F10 Save and Exit
		▶ Sub-Menu	

各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Board Part Number	—	I/Oキャリアの部品番号を表示します(表示のみ)。
Board Serial Number	—	I/Oキャリアのシリアル番号を表示します(表示のみ)。
System Part Number	—	ExpressサーバのNコードを表示します(表示のみ)。
System Serial Number	—	Expressサーバのシリアル番号を表示します(表示のみ)。
Chassis Part Number	—	シャーシの部品番号を表示します(表示のみ)。
Chassis Serial Number	—	シャーシのシリアル番号を表示します(表示のみ)。
BMC Revision	—	I/Oキャリア上のBMC(Baseboard Management Controller)のレビジョンを表示します(表示のみ)。
FPC Revision	—	フロントパネルボード上のFPC(Front Panel Controller)のレビジョンを表示します(表示のみ)。
HSC Revision	—	ホットスワップHDDバックプレーン上のHSC(Hot-swap Controller)のレビジョンを表示します(表示のみ)。

Console Redirection

Serverメニューの「Console Redirection」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Server	
Console Redirection	Item Specific Help
Com Port Address : [Disabled] IRQ n : None Baud Rate : [19.2K] Flow Control : [CTS/RTS + CD]	If enabled, the system will use the specified COM port and IRQ for console redirection. Make sure these values are identical to those of Serial Port A and B in the Peripheral Configuration setup menu.
F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit	

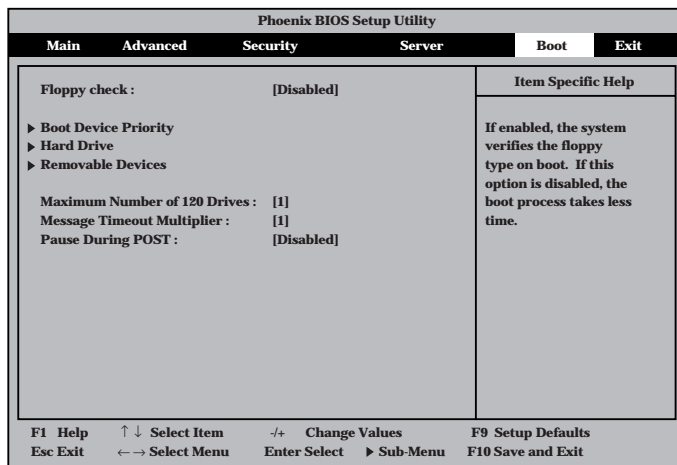
各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
COM Port Address	[Disabled] 3F8 2F8 3E8	HWコンソールを接続するシリアルポートのアドレスを設定します。
IRQ#	[3] 4	HWコンソールを接続するシリアルポートの割り込みを設定します。COM Port Addressを「Disabled」に設定すると「None」と表示されます
COM Port Baud Rate	[9600] 19.2K 38.4K 115.2K	接続するHWコンソールとのインターフェースに使用するボーレートを設定します。EMPからは最大で19.2Kをサポートします。
Flow Control	No Flow Control CTS/RTS XON/XOFF [CTS/RTS + CD]	フロー制御の方法を設定します。

[]: 出荷時の設定

Boot

カーソルを「Boot」に合わせて「Boot」メニューが表示されます。ここで接続しているデバイスからのブート順位を選択することができます。



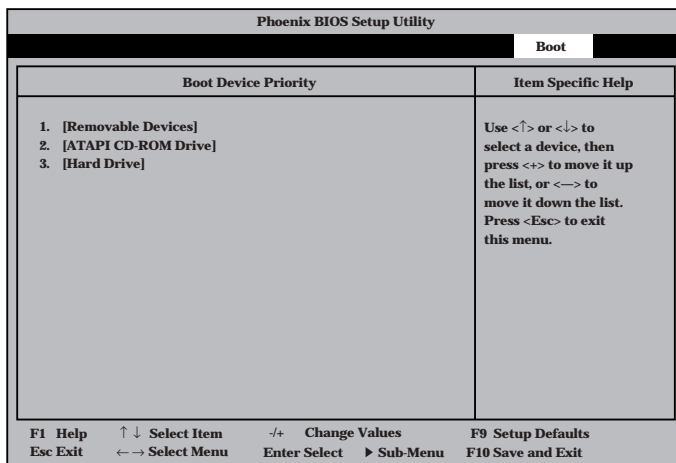
各項目の機能は次のとおりです。

項目	パラメータ	説明
Floppy Check	[Disabled] Enabled	「Enabled」に設定すると、フロッピーディスクからの起動時にフロッピーディスクのタイプをチェックします。
Boot Device Priority	—	選択するとBoot Device Priorityサブメニューが表示されます。
Hard Drive	—	選択するとHard Driveサブメニューが表示されます。
Removable Devices	—	選択するとRemovable Devicesサブメニューが表示されます。
Maximum Number of I2O Drives	[1] 4	DOSドライブに割り当てられるI2O (Intelligent I/O)ドライブの最大数を設定します。
Message Timeout Multiplier	[1] 2 4 8 10 50 100 1000	すべてのI2Oメッセージタイムアウトの値を設定します。
Pause During POST	[Disabled] Enabled	IRTSOS (I2O Real-time Operating System)を手動で起動する場合は<Enabled>に設定します。POSTが中断すると、3回ピーブ音が鳴ります。任意のキーを押してPOSTを再開します。

[]: 出荷時の設定

Boot Device Priority

Bootメニューの「Boot Device Priority」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



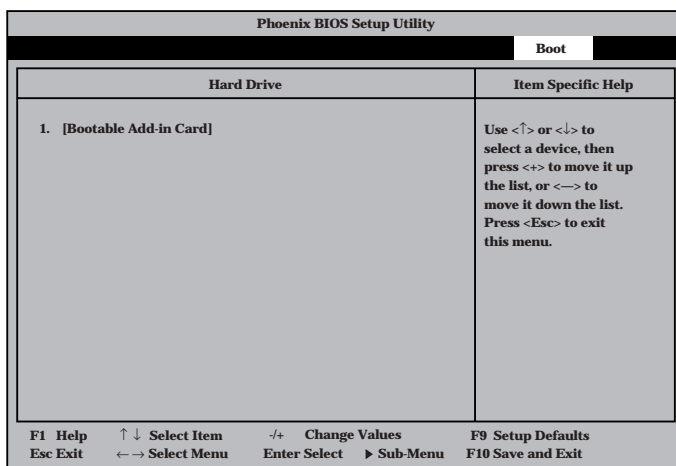
システム起動時にこのメニューで設定した順番にデバイスをサーチし、起動ソフトウェアを見つけるとそのソフトウェアで起動します。EXPRESSBUILDERを起動する場合は以下の順番に設定してください。

1. ATAPI CD-ROM Drive
2. Removable Devices
3. Hard Drive

「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」の「Multi-Boot Support」を「Enabled」に設定すると、オプションROM BIOSを搭載したLANコントローラが項目に追加されます。

Hard Drive

Bootメニューの「Hard Drive」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

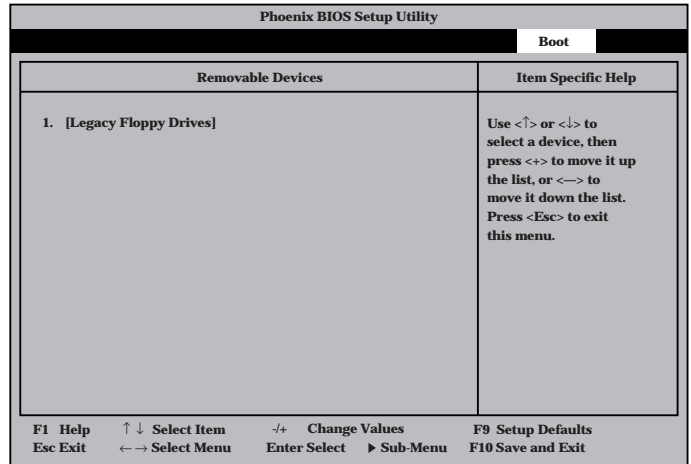


Bootさせるハードディスクドライブの優先順位を設定します。「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」の「Multi-Boot Support」を「Enabled」に設定するとハードディスクが複数取り付けられている場合、Bootさせたいハードディスクの優先順位を設定することができます。

Removable Devices

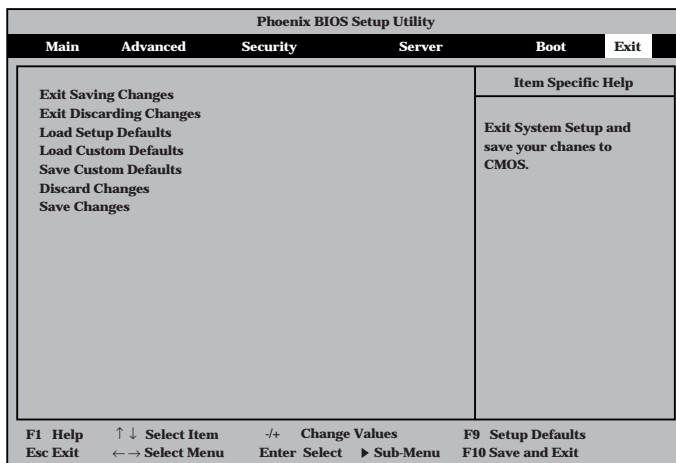
Bootメニューの「Removable Devices」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Bootさせるフロッピーディスクドライブの優先順位を設定します。



Exit

カーソルを「Exit」に合わせると「Exit」メニューが表示されます。変更した内容を保存したり、破棄したり出荷時のデフォルト値や起動前に設定されていた値に戻したりすることができます。



各項目の機能は次のとおりです。

項目	説明
Exit Saving Changes	新たに設定した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存してSETUPを終わらせる時に、この項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選ぶと新たに設定した内容をCMOS内に保存してSETUPを終了し、Expressサーバは自動的にシステムを再起動します。
Exit Discarding Changes	新たに選択した内容をCMOS(不揮発性メモリ)内に保存しないでSETUPを終わらせたい時に、この項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選択すると変更した内容をCMOS内に保存しないでSETUPを終了します。
Load Setup Defaults	SETUPのすべての値をデフォルト値に戻したい場合にこの項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選択するとデフォルト値に戻ります。
Load Custom Defaults	SETUPのすべての値をカスタムデフォルト値に設定したい場合にこの項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選択するとカスタムデフォルト値に設定されます。
Save Custom Defaults	SETUPを終了せず、新たに設定した内容をカスタムデフォルト値としてCMOS内に保存するときにこの項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選ぶと新たに設定した内容をカスタムデフォルト値としてCMOS内に保存します。万一CMOSの内容が破壊されてもカスタムデフォルト値が設定されていれば、この値で起動します。カスタムデフォルトが設定されていないと出荷時の設定で起動します。
Discard Changes	CMOSに値を保存する前に変更した内容を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選択すると新たに設定された内容が破棄され、以前の値に戻ります。
Save Changes	SETUPを終了せず、新たに設定した内容をCMOS内に保存するときにこの項目を選択します。確認メッセージの画面で「Yes」を選ぶと新たに設定した内容をCMOS内に保存します。

SCSI BIOS ~SCSI Configuration Utility~

SCSI BIOSセットアップユーティリティには、ExpressサーバのI/Oキャリア上のSCSIコントローラ用とオプションのSCSIコントローラボード用の2つがあります。

- ExpressサーバのI/Oキャリア上のSCSIコントローラ用: SCSI Configuration Utility
- オプションのSCSIコントローラボード用: SCSI Select Utilityなど

ここでは、SCSI Configuration Utilityの操作方法について説明します。オプションのボードに搭載されているSCSI BIOSセットアップユーティリティの操作方法については、SCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。

Expressサーバがサポートしている以下のオプションのSCSI機器を接続するときは、それぞれのユーティリティを使って次の表のとおりを設定を変更してください。

デバイス	型名	Maximum Sync Transfer Rate	Width (bits)
DLT集合型(ラックマウント用)	N8560-30	20	16
Upgrade型DLTライブラリ(ラックマウント型)	N8560-26	20	16

SCSI Configuration Utilityの用途

SCSI Configuration UtilityはI/Oキャリア上のSCSIコントローラに対して各種設定を行うためのユーティリティで、起動には特殊な起動ディスクなどを使用せずに、POSTの実行中に簡単なキー操作から起動することができます。

SCSI Configuration Utilityは、Expressサーバに接続したSCSIバックアップデバイス(DATやAITなど。ハードディスクを除く)の転送速度やネゴシエーション等の設定を行うために使用します。



重要 SCSIのコンフィグレーションはSCSIコントローラ単位に個別にユーティリティを起動して設定しなければなりません。I/Oキャリア上にはSCSIコントローラが1つ搭載されています。このコントローラに対する設定は「SCSI Configuration Utility」を使用します。オプションのSCSIコントローラボードを増設した場合は、Expressサーバ内蔵のSCSIコントローラに加え増設した枚数分のSCSIコントローラの設定が必要です。また、設定を変更するために使用するユーティリティも異なります。詳しくはオプションに添付の説明書を参照してください。

起 動

SCSI Configuration Utilityの起動方法を次に示します。



Expressサーバには、最新のバージョンのユーティリティがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。本書と異なる設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。

1. Expressサーバの電源をONにする。

POST実行中の画面の途中で次のメッセージを表示します。

```
LSI logic SDMS(TM) Vx.x PCI SCSI BIOS, PCI Rev.x.x,x.x
Copyright 1995, 1998 Symbios Inc.
PCI-x.xx.xx
```

```
Press Ctrl-C to start Symbios Configuration...
```

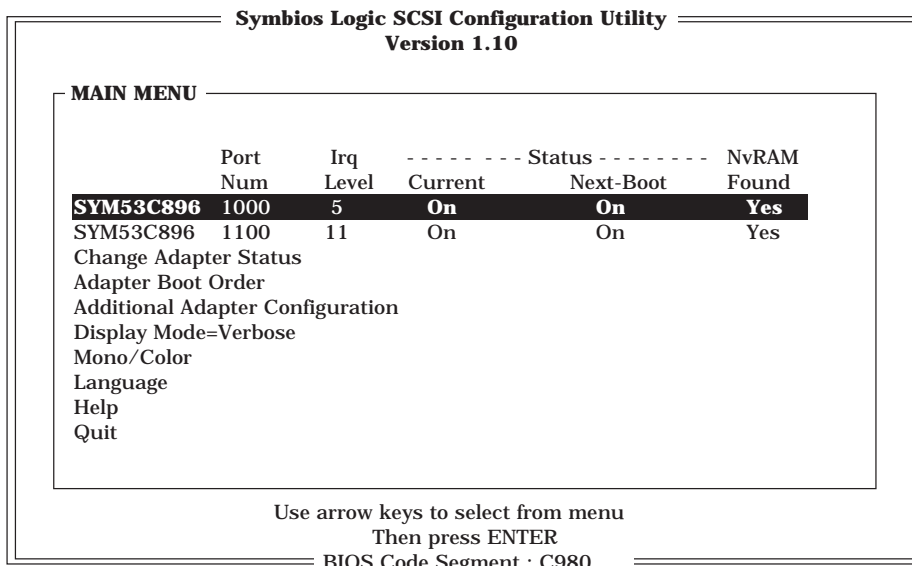
2. <Ctrl>キーを押しながら<C>キーを押す。

SCSI Configuration Utilityユーティリティが起動し、メインメニューを表示します。



「Searching for Device ...」が表示され、SCSIデバイスの検出を開始する前にキーを入力してください。SCSIデバイスの検出をはじめた後ではキー入力を受け付けません。

<表示例>

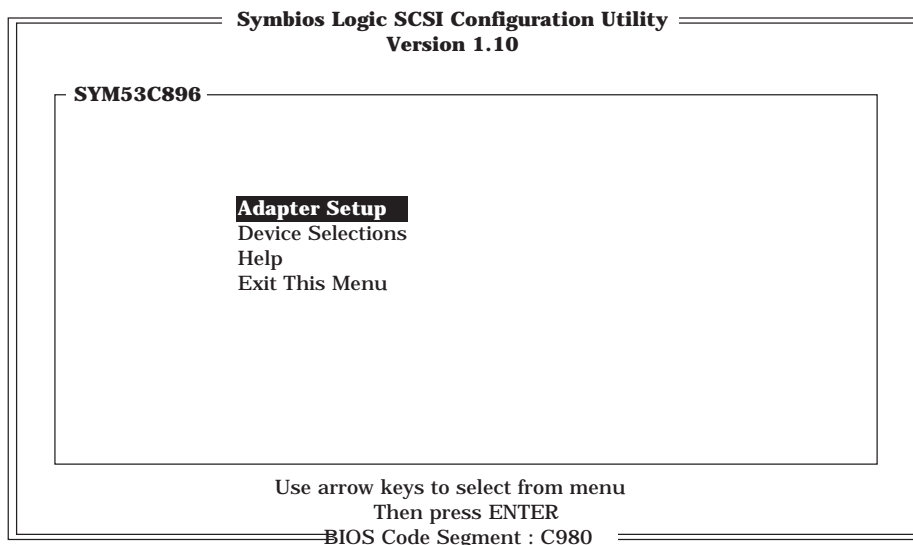


MAIN MENUにある項目は次のとおりです。

- SYM53C896 ----- I/Oキャリア上のSCSIコネクタ(アダプタ)です。内蔵ハードディスク用(ch : A)と外付けSCSIデバイス用(ch : B)の2種類あります。アダプタを選択して、<Enter>キーを押すと「Utilities」メニューが表示されます。
- Change Adapter Status ----- I/Oキャリア上のSCSIコネクタ(アダプタ)のステータスを変更します。
- Adapter Boot Order ----- I/Oキャリア上のSCSIコネクタ(アダプタ)の中でのブート順位を設定します。
- Additional Adapter Configuration -- アダプタがオプションを含めて複数存在するときに有効になります。表示するアダプタを選択できます。
- Display Mode ----- 表示モードを設定します。
- Mono/Color ----- 表示色がカラーかモノクロかを設定します。
- Language ----- 表示する言語を設定します。
- Help ----- ヘルプを表示します。
- Quit ----- ユーティリティを終了します。

Utilitiesメニュー

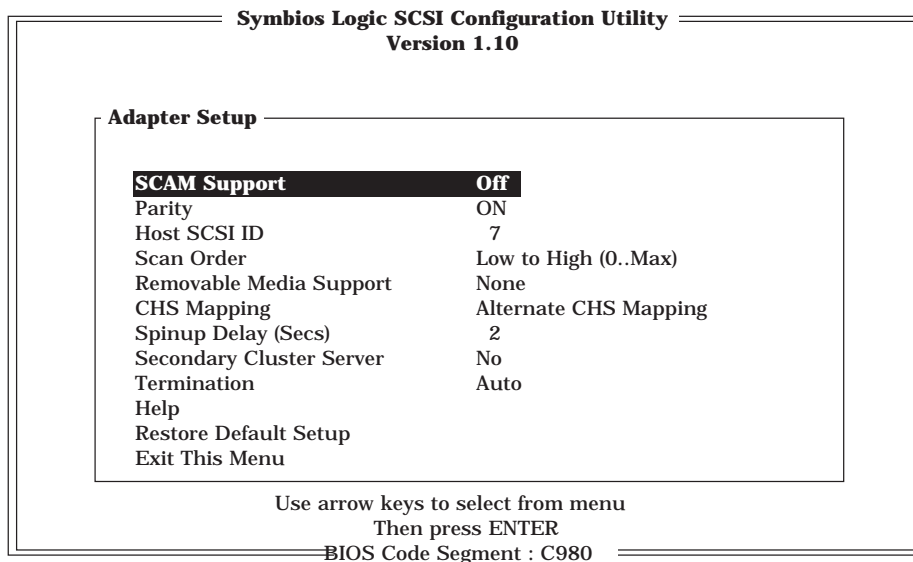
UtilitiesメニューはMAIN MENUでアダプタを選択後、<Enter>キーを押すと表示されます。ここで、選択したアダプタおよびアダプタに接続されているSCSI機器の設定を変更できます。



Adapter Setup

Utilitiesメニューの「Adapter Setup」を選択し、<Enter>キーを押すと「Adapter Setup」メニューが表示されます。

メニューと機能および選択できるパラメータは次のとおりです。



項目	パラメータ	説明
SCAM Support	[Off] On	SCAM(SCSI Configured Automatically protocol)はSCSIのPlug&Playの有効/無効を設定します。
Parity	[On] Off	パリティチェックを行います。
Host SCSI ID	0~[7]~15	SCSIホストIDを選択します。通常は、「7」に設定してください。
Scan Order	[Low to High (0...Max)] High to Low (Max...0)	SCSI IDのスキャン順序を設定します。
Removable Media Support	[None] Boot Drive Only With Media Installed	「None」に設定してください。
CHS Mapping	SCSI Plug and Play Mapping [Alternate CHS Mapping]	出荷時の設定のままにしておいてください。
Spin Up Delay	1~[2]~10	各ハードディスクのスピニングアップする間隔を秒単位で設定します。
Secondary Cluster Serber	[No] Yes	アダプタに接続されたSCSIデバイスを他のアダプタと共有(シェアリング)させるかどうかを選択します。
Termination	Auto	終端制御の方法を表示します(表示のみ)。
Help		Helpを表示します。
Restore Default Setup		出荷時の設定に戻します。
Exit this menu		1つ前のメニューへ戻ります。

[]: 出荷時の設定

Device Selections

Utilitiesメニューの「Device Selections」を選択し、<Enter>キーを押すと「Device Selections」メニューが表示されます。ここでは、アダプタに接続されているSCSI機器が一覧で表示されます。

* 内蔵の3.5"デバイスのID : 0にN8550-133を取り付けた場合の例

Symbios Logic SCSI Configuration Utility
Version 1.10

Device Selections 0 to 7

	Sync Rate	Data Width	Disc	Time Out	Scan Bus	Scan LUNS	Queue Tags	Init Boot
SEAGATE ST318404LC 0006	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
Dev1 N/A	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
Dev2 N/A	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
Dev3 N/A	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
Dev4 N/A	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
Dev5 N/A	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
ESG-SHV SCA HSBP M8 0.05	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No
SYM53C896	80	16	On	10	Yes	Yes	On	No

Device Selections 8 to 15
Help
Exit this menu

Use arrow keys to select from menu
Then press ENTER

BIOS Code Segment : C980

SCSI機器を選択し、<Enter>キーを押すと、選択したSCSI機器に関する設定内容が表示されます。メニューと機能および選択できるパラメータは次のとおりです。

Symbios Logic SCSI Configuration Utility
Version 1.10

SEAGATE ST318404LC 0006 Setup

Sync Rate (MBytes/sec)	80
Width (bits)	16
Disconnect	On
Read/Write I/O Timeout (secs)	10
Scan for Device at Boot Time	Yes
Scan for SCSI LUNS	Yes
Queue Tags	On
Initial Boot Device	No
Format	
Verify	
Help	
Restore Default Setup	
Exit This Menu	

Use arrow keys to select from menu
Then press ENTER

BIOS Code Segment : C980

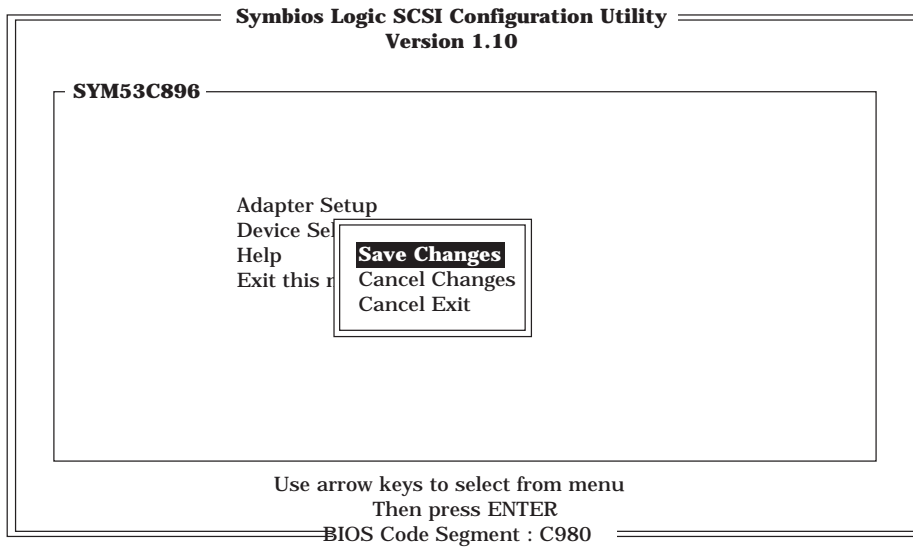
項目	パラメータ	説明
Sync Rate (MBytes/sec)	A* B* C* Off Off Off 10 10 5 20 20 10 40 [40] [20] [80] 80 40	転送レートの最大値を設定します (MBytes/sec.)。ホストとデバイス間の最小値を設定することをお勧めします。 Ultra2 Wide SCSIは「80」に設定してください。 Ultra Wide SCSIは「40」に設定してください。 Narrow SCSIは「20」に設定してください。
Width (bits)	A* B* C* 8 8 [8] [16] [16] 16	転送時のビット幅を設定します。 Ultra2 Wide SCSIは「16」に設定してください。 Ultra Wide SCSIは「16」に設定してください。 Narrow SCSIは「8」に設定してください。
Disconnect	Off [On]	デバイスディスクコネクタの許可を設定します。 「On」に設定してください。
Read/Write I/O Timeout (Sec)	0~[10]~9999	リードライトのタイムアウトを秒単位に設定します。 「0」以上に設定してください。
Scan for Device at Boot Time	No [Yes]	ブート時にスキャンさせたくないときは「No」に 設定してください。
Scan for SCSI LUNS	No [Yes]	論理ユニット (LUN) をスキャンさせたくない場合に 「No」を選択します。
Queue Tag	Off [On]	デバイスがキューを発行できる場合、I/Oリクエスト の間のキューの発行を設定します。
Initial Boot Device	[No] Yes	選択したデバイスを最初に起動するデバイスに設定 します。
Format		選択したデバイスをローレベルでフォーマットしま す。
Verify		選択したデバイスのすべてのセクタをペリファイし ます。不良セクタが存在したときはアサインし直し ます。
Help		Helpを表示します。
Restore Default Setup		出荷時の設定に戻します。
Exit this menu		1つ前のメニューに戻ります。

* A: Ultra2 Wide SCSI B: Ultra Wide SCSI C: Narrow SCSI []: 推奨値

Utilitiesメニューの終了と設定の保存

Utilitiesメニューで「Exit this menu」を選択し、<Enter>キーを押すと変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

「Save Changes」を選択し、<Enter>キーを押します。変更内容を保存して、「MAIN MENU」に戻ります。



SCSI Configuration Utilityの終了

MAIN MENUで「Quit」を選択し、<Enter>キーを押します。
SCSI Configuration Utilityを終了します。

リセットとクリア

Expressサーバが動作しなくなったときやBIOSで設定した内容を出荷時の設定に戻すときに参照してください。

リセット

Expressサーバは高い信頼性をほこる装置ですが、誤ったハードウェア構成やネットワーク環境で使用したり、不正なソフトウェアやプログラムを実行したりすると、ストールすることがあります。いったんストールすると、それ以上処理を進めることができなくなりネットワーク環境などでは大きな影響を与えることになります。

この状態から、Expressサーバを元の正常な状態に戻すには、リセットを行ってください。Expressサーバのリセットにはキーボードから操作する「ソフトリセット」とExpressサーバ前面にあるRESETスイッチによる「ハードウェアリセット」、POWERスイッチを使った「コールドリセット」の3つの方法があります。



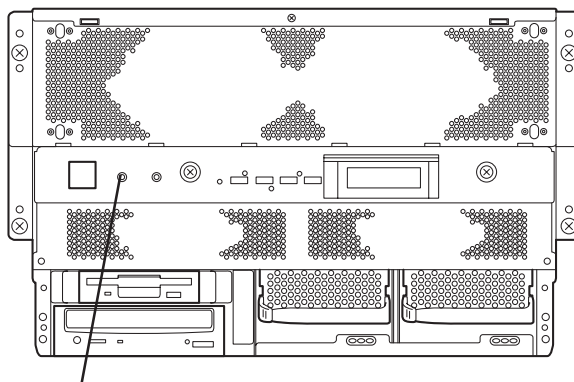
リセットは、ExpressサーバのDIMM内のメモリや処理中のデータをすべてクリアしてしまいます。ハングアップしたとき以外でリセットを行うときは、Expressサーバがなにも処理していないことを確認してください。

ソフトリセット

OSが起動する前にExpressサーバが動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。Expressサーバがリセットされます。

ハードウェアリセット

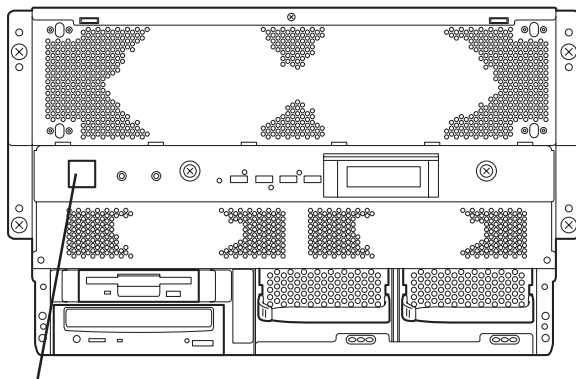
ソフトリセットが機能しないときにこの方法でリセットします。Expressサーバ前面にあるRESETスイッチを押します。



RESETスイッチ

コールドリセット

ハードウェアリセットしても正常に動作しないときはこの方法でリセットします。ExpressサーバのPOWERスイッチを押して、電源をOFFにした後、約10秒ほど待ってから再びPOWERスイッチを押して電源をONにします。



POWERスイッチ

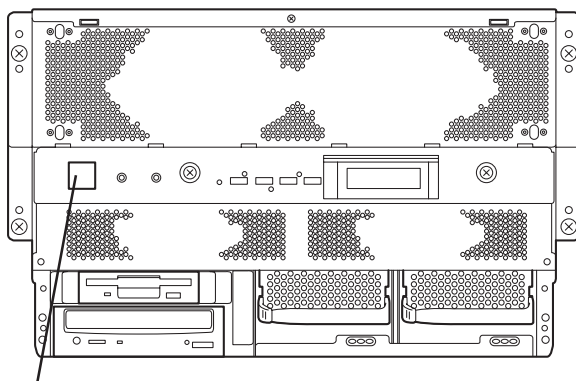
強制シャットダウン

OSからExpressサーバをシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったとき、リセットが機能しないときなどに使用します。

ExpressサーバのPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。(電源を再びONにするときは、電源OFF(強制シャットダウン)から約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。)



リモートパワーオン機能を使用している場合は、一度、電源をONにし直して、Windows 2000/Windows NT 4.0を起動させ、正常な方法で電源をOFFにしてください。



POWERスイッチ
(4秒以上押し続ける)

CMOS・パスワードのクリア

Expressサーバ自身が持つセットアップユーティリティ「SETUP」では、Expressサーバ内部のデータを第三者から保護するために独自のパスワードを設定することができます。万一、パスワードを忘れてしまったときなどは、ここで説明する方法でパスワードをクリアすることができます。

また、ExpressサーバのCMOSに保存されている内容をクリアする場合も同様の手順で行います。



CMOSの内容をクリアするとSETUPの設定内容がすべて出荷時の設定に戻ります。



設定しているパスワードをクリアしてパスワードを無効にしたい場合は、SETUPメニューからでも行えます。

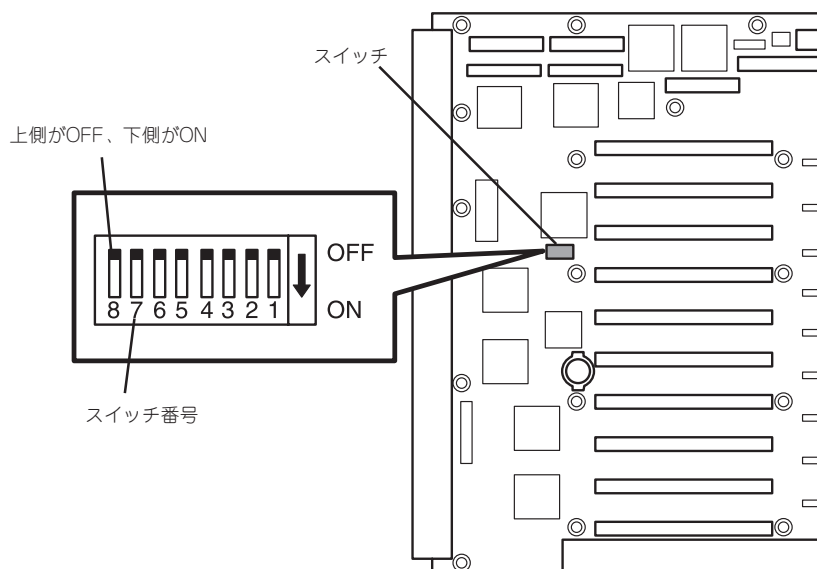
[SETUP]→[Set User Password]→ブランクに設定

[Security]→[Set Administrator Password]→ブランクに設定

パスワード/CMOSのクリアはI/Oキャリア上のスイッチを操作して行います。スイッチは下図の位置にあります。



その他のスイッチの設定は変更しないでください。Expressサーバの故障や誤動作の原因となります。







● パスワードの保護/クリア用スイッチ

- スイッチ6をON: パスワードをクリアする
- スイッチ6をOFF: パスワードを保護する(出荷時の設定)

● CMOSの内容の保護/クリア用スイッチ

- スイッチ5をON: CMOSの内容をクリアする
- スイッチ5をOFF: CMOSの内容を保護する(出荷時の設定)

それぞれの内容をクリアする方法を次に示します。

 警告	
  	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない

1. 105ページを参照してExpressサーバの電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。
2. 120ページを参照してExpressサーバをラックから引き出す。
3. 126ページを参照してExpressサーバのPCIスロットカバーを取り外す。
4. クリアしたい機能のスイッチの設定を変更する。
5. Expressサーバを元どおりに組み立ててPOWERスイッチを押す。
6. POSTを終了したら、電源をOFFにする。
7. スwitchの設定を元に戻した後、もう一度電源をONにして設定し直す。

I/Oポートアドレス

Expressサーバでは、I/Oポートアドレスを次のように割り当てています。

I/Oアドレス	リソース
0000 - 001F	DMAコントローラ
0020 - 0021	割り込みコントローラ1
0022 - 0040	未使用
0040 - 005F	プログラマブルタイマ
0060 & 0064	キーボードコントローラ
0061	NMIステータス/コントロールレジスタ
0070	NMIマスクビットとリアルタイムクロックインデックスアドレス
0071	リアルタイムクロック
0072	リアルタイムクロック拡張インデックスレジスタ
0073	リアルタイムクロック拡張データレジスタ
0080 - 008F	DMA ローページレジスタ
0092	ポート92レジスタ
00A0 - 00A1	割り込みコントローラ2
00B2	アドバンスド電源管理制御
00B3	アドバンスド電源管理ステータス
00C0 - 00DF	DMAコントローラ
00F0	コプロセッサエラー
0170 - 0177	セカンダリIDEコントローラ
01F0 - 01F7	プライマリIDEコントローラ
0278 - 027F	パラレルポート2(再配置可能)
02E8 - 02EF	シリアルポート4(再配置可能)
02F8 - 02FF	シリアルポート2(再配置可能)
0370 - 0377	セカンダリフロッピーディスク
0378 - 037F	シリアルポート1(再配置可能)
03BC - 03BF	パラレルポート3
03E8 - 03EF	シリアルポート2(再配置可能)
03F8 - 03FF	シリアルポート1(再配置可能)
0CF8	PCI構成アドレスレジスタ
0CFC	PCIデータアドレスレジスタ
0CF9	リセットコントロール
04D0 - 04D1	INTCエッジ/レベルレジスタ
0C00 - 0C7F	電源管理ベースアドレス
0CA8 - 0CAF	SMICデコーダ
0CC0 - 0CCF	SMベースアドレス
2000 - FFFF	PCIデバイス割り当て用

*1 16進数で表記しています。

